

設楽の城砦めぐり

―道満屋敷と砦山編―



通称天神山全景

砦は、清崎集落の多寶寺（たほうじ）から、東側に続く天神山、標高四二〇メートルの独立小山に築かれていた。

砦跡からは、東側に鞍掛山と、信州に続く伊那道が一望できる。西側は豊川と集落全域が監視できる適地にある。

山頂部は見張台跡、東側には二段の曲輪があり、西側には一段の曲輪に天満宮が祀られ、子どもたちだけで天神様の祭りが行われている。

館跡は、寺より東側の高台にあつて、東の山側に排水溝を兼ねる小規模の土塁と堀が残る。北側に道満稻荷社が祀られていたが、現在、社は破却され郷愁を感じさせる。

館の主は、菅沼氏の一族である菅沼道満、道満について諸説あるが、天正元年（一五七三）長篠の戦いで武田軍に属し、徳川軍と戦い新城市長畑の地で討死したと伝わる。

（愛知県文化財保護指導委員

加藤 博俊）